

## パルシステム東京は、 組合員と論議を重ねた結果、

# 100%再生ペットボトル水は 扱わない

## を選択しました。

増え続けるプラスチックごみ。  
近年、「マイクロプラスチック」問題  
も深刻に。

戦後の経済成長期、くらしのなかで急速に普及したのが、安くて使い勝手のよいプラスチックの使い捨て容器。当時はほとんどリサイクルもされず、石油資源の浪費とごみ焼却による有害物質の発生、埋め立て処分場の不足などが社会問題になりました。

1995年に「容器包装リサイクル法」が制定され、ペットボトルの回収率は上がりましたが、実際には回収されたペットボトルの半分は海外へ輸出。国内でも繊維や建材などへの1回限りのリサイクルに回されるものがほとんどで、資源循環が充分に行われているとは言えません。

一方で、ペットボトルの出荷量はこの10年で1.4倍に増加。また、近年深刻化しているのが、海に漂う見えないごみ、「マイクロプラスチック」の問題です。紫外線や波で細かく分解されたプラスチックごみが有害化学物質を吸着。それを食べた海鳥や魚などの体内に汚染物質が蓄積され、生態系や人体に影響を及ぼすことも懸念されています。



100%再生ペットボトル水について  
学習会や論議を重ねてきました。

これまでパルシステムは、3Rの観点からペットボトルの使用を見合わせてきましたが、東日本大震災以降、非常用の水を求める声が増したを受け、供給

を検討。ペットボトルからペットボトルへの再生技術が進んできたこと、回収、再生を一貫して行える独自の体制が整ったことなどから、東京を除くグループ内生協(※)で、100%再生ペットボトルの「富士の天然水(PET)」の供給が始まりました。

一方、パルシステム東京は、再生原料100%であっても、導入にあたっては組合員への十分な情報開示と徹底した論議が不可欠と考えました。そこで、学習会を繰り返し開催し、100%再生ペットボトルのメリットとデメリット、プラスチックごみの現状などを共有。配送職員への負荷なども考慮しながら話し合いを重ね、今年6月の総代会で、3Rのうちリデュース(発生抑制)の観点から「富士の天然水(PET)」を扱わないことを決定しました。

「多様な意見があるなかでくださった苦渋の決断です。引き続き、ペットボトルに代わる水の備蓄方法、震災への備えなどを提案していきます」

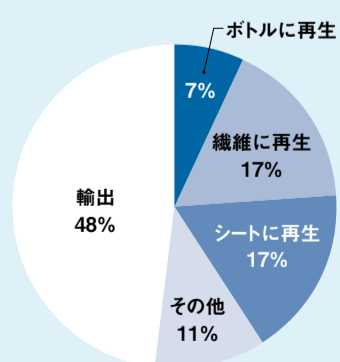
(パルシステム東京理事会)

※パルシステム神奈川ゆめコープ、パルシステム千葉、パルシステム埼玉、パルシステム茨城、パルシステム山梨、パルシステム群馬、パルシステム福島、パルシステム静岡、新潟ときめき生協

3R  
リデュース(発生抑制)  
**Reduce**  
リユース(再利用)  
**Reuse**  
リサイクル(再生利用)  
**Recycle**

「3R」とは  
「リデュース」「リユース」「リサイクル」の頭文字をとったもの。パルシステムは容器包装の「3R」に取り組んでいます。

【 行政等の回収ペットボトルのゆくえ 】



出典:PETボトルリサイクル推進協議会 2014  
一般にペットボトルは90%以上が回収されているものの、半数は中国などへ輸出されているのが現状です。

## 100%再生ペットボトル水をめぐるこれまでの経緯

### 2015年

7月 パルシステムグループ(連合会)で100%再生ペットボトル水(2L×6)の開発が提起される

#### 連合会との間で確認されたこと

- 樹脂再生技術により100%再生ペットボトル水(2L×6本)に限り、環境負荷の低減を進めるためにグループでの供給を行う
- 取り組みの主旨は、樹脂再生技術設備をもった新たな生産者と組合員のつながりで、ペットボトルの課題を解消していくことである
- 供給が開始されても、パルシステムは引き続きペットボトルを大量生産・大量消費している現状に異議を唱え続ける

9月 パルシステム東京の理事長から連合会に意見要望を提出

10月 パルシステム東京内で議論が始まる

2016年1月の供給開始は見合わせて、「地球環境への影響」や「災害時における水の確保」、「配送業務にかかる負荷」など総合的な観点から組合員議論をすることに

### 2016年

1月 パルシステムグループの他生協で「富士の天然水(PET)」の取り扱い開始



3月

- マイクロプラスチック学習会
- 容器包装に関する学習会
- 連合会との意見交換会
- メカニカルリサイクル学習会
- 工場見学
- 他生協の動向注視



10月

- 理事共有会議/理事会で議論
- 総代会議/委員会の意見共有と議論
- 組合員からの意見募集

### 2017年

6月13日 パルシステム東京の総代会(※)で議決



パルシステム東京は「富士の天然水(PET)」を扱わないことを選択しました

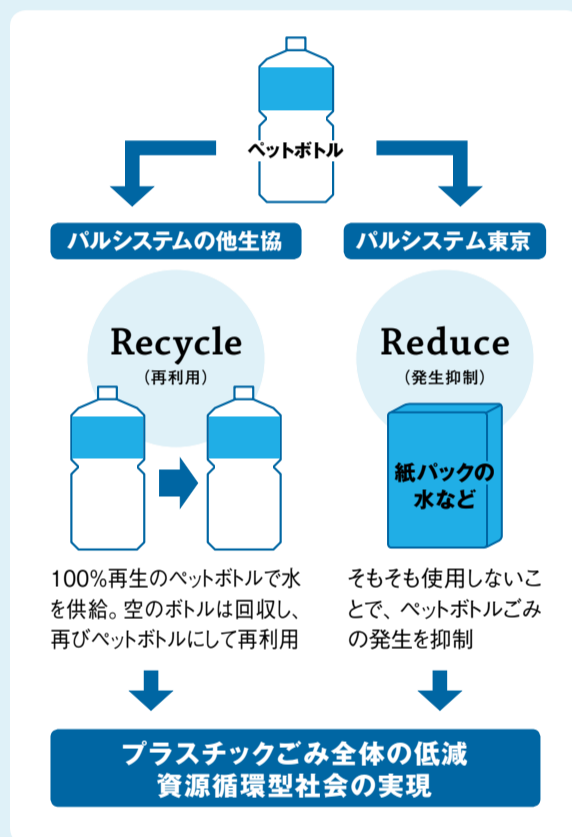
※ 総代会は、組合員から選出された代表(総代)が参加し、重要事項を決定する生協の最高意思決定機関です。



# パルシステム東京はリデュース(発生抑制)を選びました。

資源循環型の持続可能な社会をめざして。

100%再生ペットボトルを取り扱うことのメリットとデメリットを考え合わせて、パルシステム東京は取り扱わない道を選択。他のグループ生協は、災害時にも利用しやすい「水」に限定し、導入することを選択しました。どちらも目標に掲げるのは、資源循環型の持続可能な社会の実現。パルシステムグループとして、今後もペットボトルの大量生産、大量消費には異議を唱え、プラスチックごみ全体の低減をめざします。



「餃子にしよう!」など環境に配慮してトレーをなくし、袋だけのパッケージにしています。



「こだわり酵母食パン」などパッケージの留め具を廃止したり、包材の使用量の削減を行っています。

小さな積み重ねを大事に。商品パッケージも見直し。

パルシステムでは、商品パッケージからトレーを除いたり、できるだけシンプルな包装にしたりと、プラスチックごみを少しでも減らすことを心がけています。たとえば、ロングセラーの「餃子にしよう!」は、トレーをなくし袋だけのパッケージに。かさばらないので冷凍室が片づけやすいと好評です。パンなどの包装の簡素化や、納豆のPB化にともないプラスチック容器から紙容器に変更するなど、一見小さなことの積み重ねも大切にしています。

### カタログでは毎週紙パックの水を紹介してます

▽カタログにより注文番号が異なります。ご注意ください。商品と注文番号は企画回ごとに変わります。

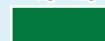


1点につき16円引



コトコト

きなり



あずみ野の水(ABパック)

1L×6 525円(税込567円)

信州、北アルプスの常念岳の麓の安曇平から採水。そのまま飲用するほか、お茶や料理にも。

M ● 146103 ● 得



88円/1本

(ゴールドパック) 命長野

引き続き、3R運動に真摯に取り組んでいきます。

資源保護やボトル製造にかかるCO2排出量の低減が期待される100%再生ペットボトルの技術。とはいえ、きちんと回収し、ペットボトルからペットボトルへのリサイクルの輪が循環しないと、単にプラスチックごみを増やす結果になりかねません。パルシステム東京では、グループの他生協のボトル回収状況を注視するとともに、他のプラスチック容器についても見直しを続けていきます。